

青森新時代

「農林水産力」

強化パッケージ

概要



New 5 years plan

▶ 青森新時代

令和6年2月22日

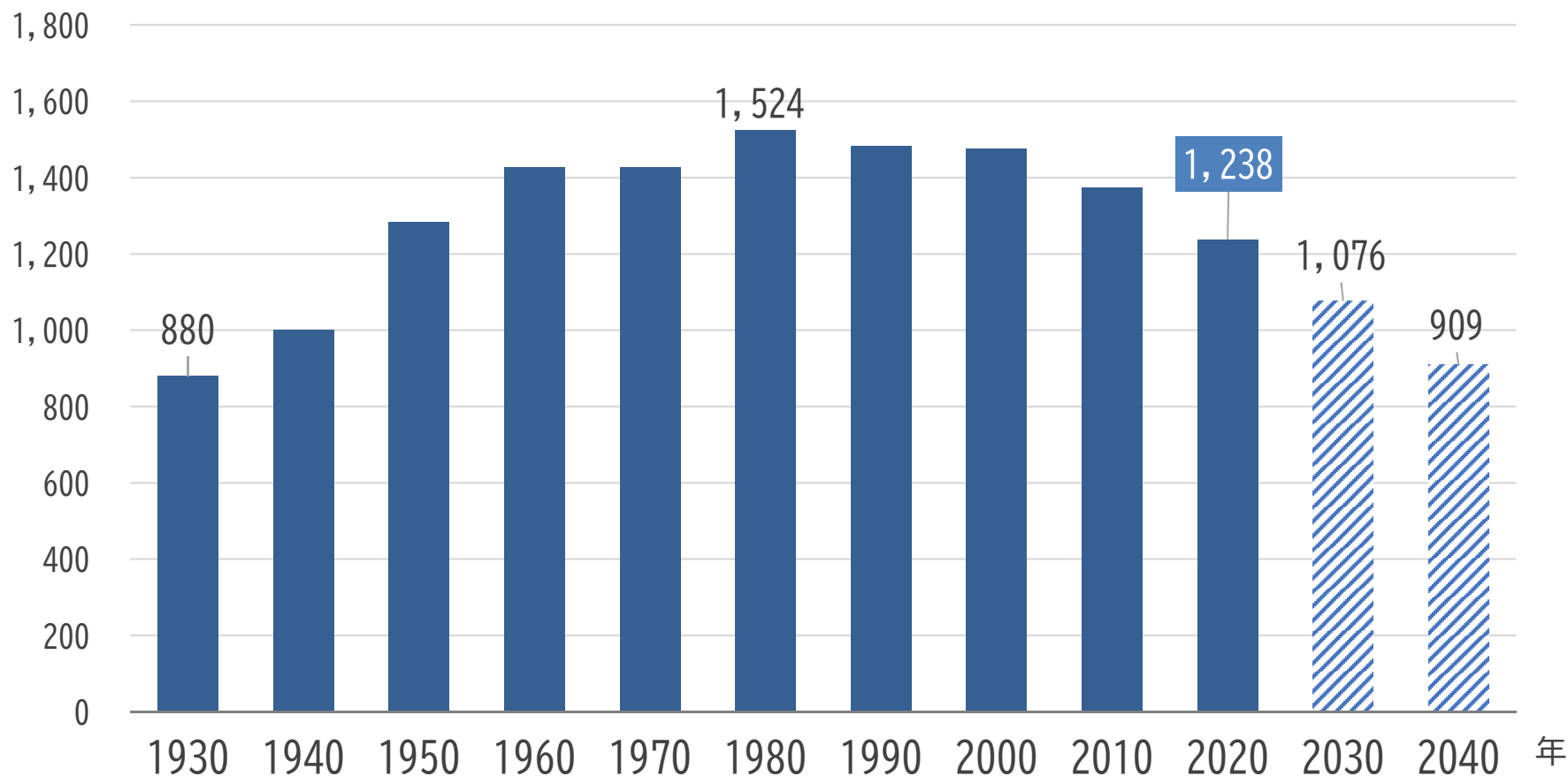
青森県

人口減少

■本県の人口は、2030年に107万人、2040年に90万人まで減少すると予想。

(千人)

青森県の人口推移と将来推計

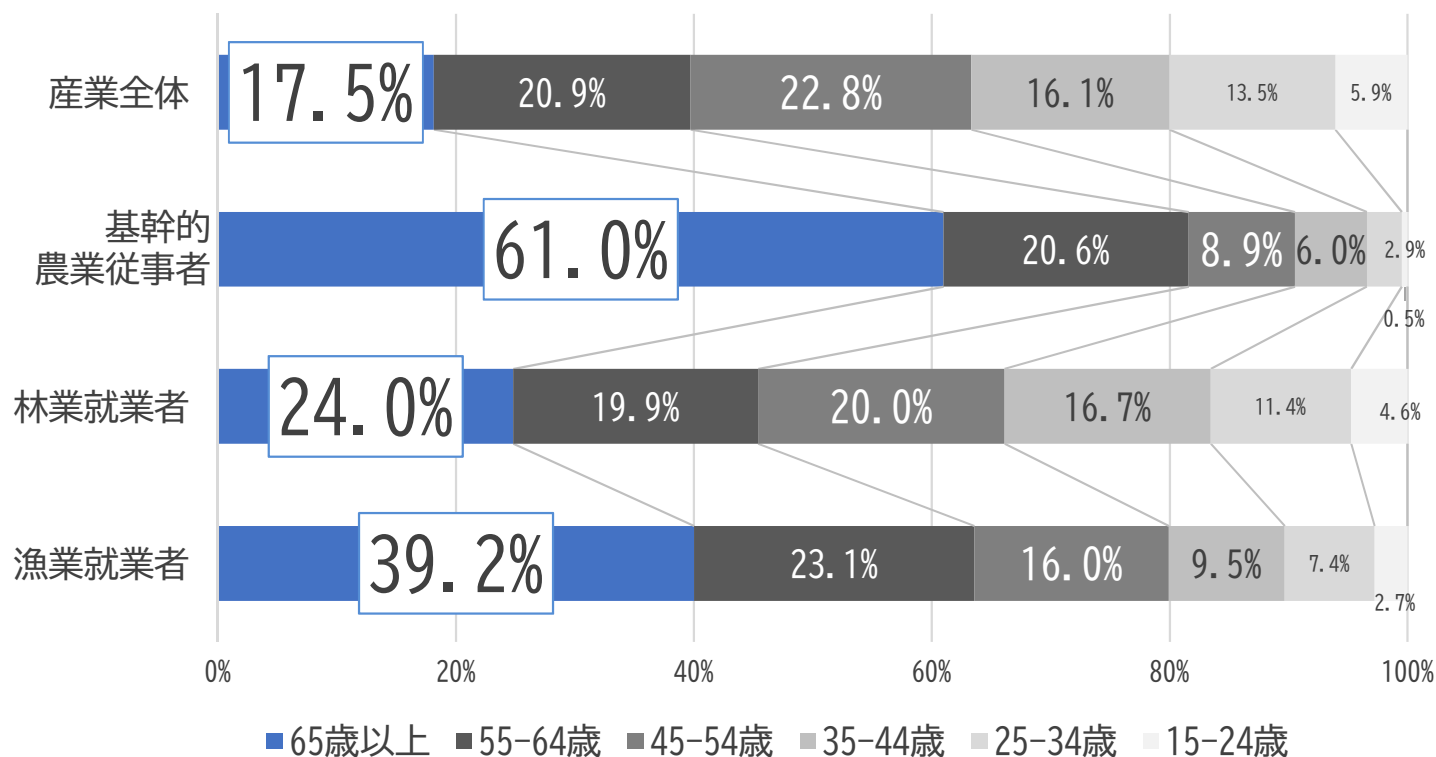


資料:総務省「国勢調査」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)について」

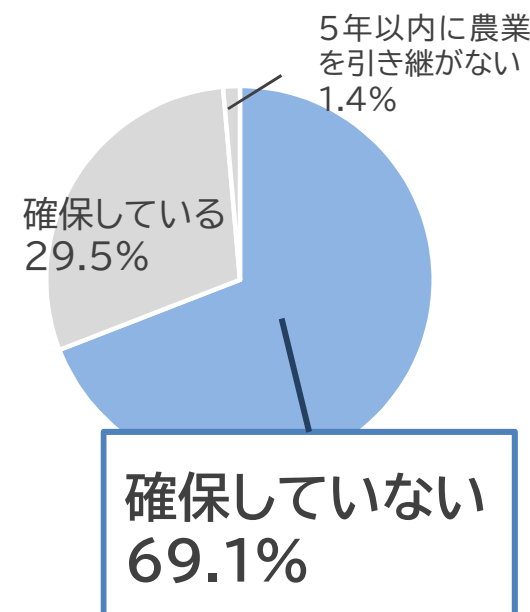
就業者の高齢化

- 農林水産業は、他産業よりも高齢化が進んでいる。
- 65歳以上の農業経営者の約7割が後継者を確保していない。

年齢階層別の労働人口



経営者が65歳以上の経営体における後継者の確保状況



資料：農林水産省「2020農林業センサス」

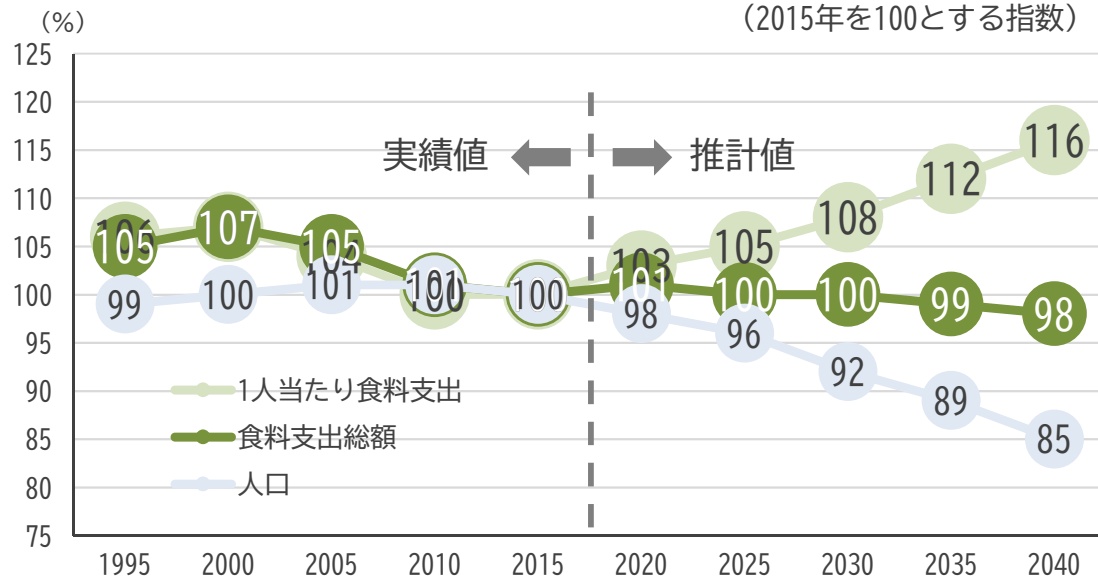
資料：総務省「2020国勢調査」、農林水産省「2020農林業センサス」「2018漁業センサス」

市場動向の将来推計

- 国内の食料支出総額は横ばい
- 生鮮食品が減少、加工食品が増加
- 世界の食料マーケットは拡大

【グラフ1】 食料支出総額、1人当たり食料支出の将来推計

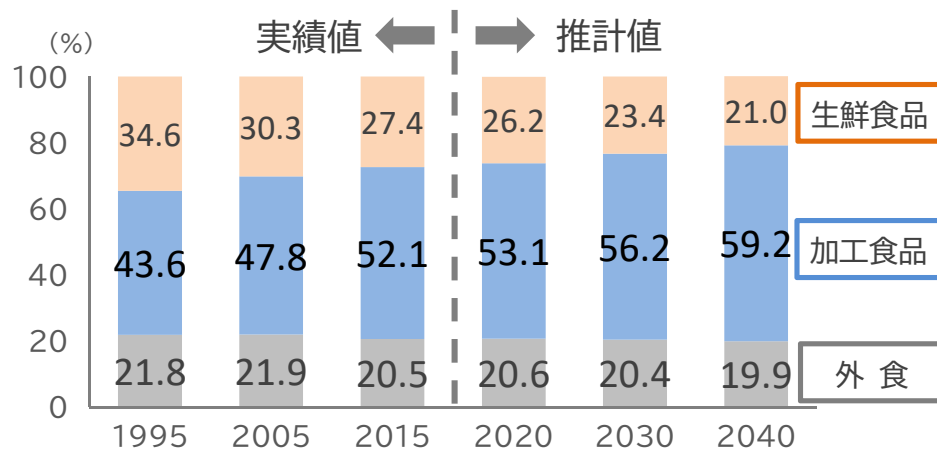
(2015年を100とする指数)



資料：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計（2019年版）」

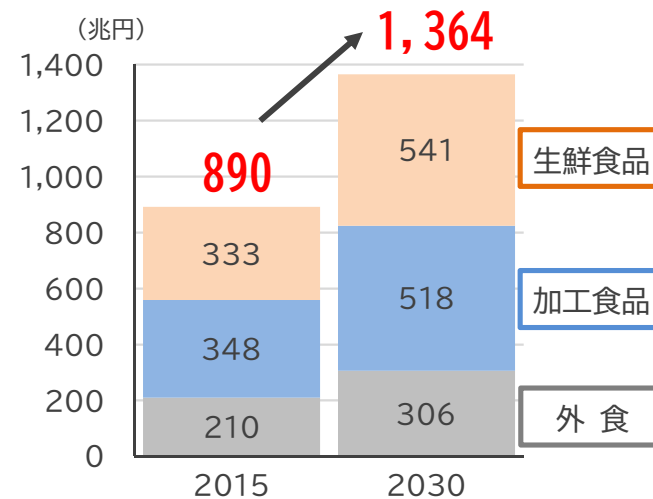
【グラフ2】

消費形態別の食料支出割合の将来推計(総世帯:1人当たり)



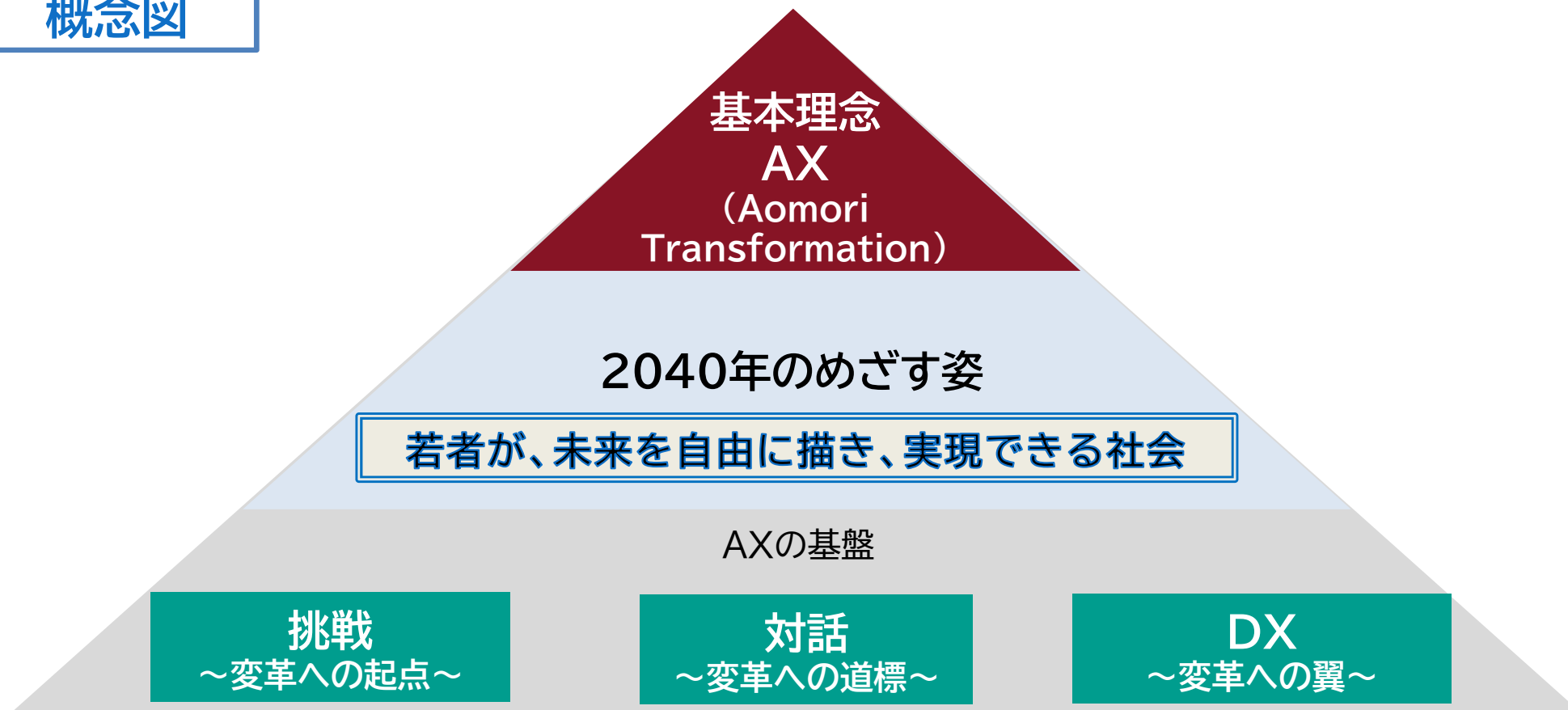
資料：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計（2019年版）」

【グラフ3】 世界の飲食料市場規模の将来推計



資料：農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計（2019年3月）」

概念図



県民一人ひとりが「青森を変えたい」「青森を良くしたい」という強い思いを持って、本県が有する多彩な地域資源を生かしながら挑戦を続け、新たな未来を切り拓いていく。

県民との対話を踏まえて県政の課題等を把握し、進むべき方向性を定め、取組を進めていく。

デジタル技術の活用により、人口減少に伴う諸課題を解決し、社会を維持・発展させる。また、地理的・時間的制約を乗り越え、世界に向けて、青森県の価値・魅力をより強力に発信する。

青森新時代「農林水産力」強化パッケージ

「青森新時代」

2040年のめざす姿は、「若者が、未来を自由に描き、実現できる社会」

「農林水産力」

青森県基本計画の政策目標である「豊かさを実感できる力強い農林水産業の実現」をコンパクトに「農林水産力」と表現したものです。

また、生産者個々の技術力や、豊かな地域資源を生かした生産・販売力、農山漁村の活力を結集して収益力を高めていく思いを込めています。

「強化パッケージ」

関係者が一丸となって、青森県の「農林水産力」を強化するための施策をまとめたものです。

強化パッケージの実施期間は、令和6年度～令和10年度までの5年間とします。

青森新時代「農林水産力」強化パッケージの概要

青森県 基本計画	基本理念	A X (Aomori Transformation) ▶ A Xの基盤 「挑戦」 「対話」 「DX」						
	めざす姿	若者が、未来を自由に描き、実現できる社会						
	政策テーマ	しごと	健康	こども	環境	交流	地域社会	社会資本

青森新時代「農林水産力」強化パッケージ

農林水産業が
持続的に発展する社会

特徴1

品目・分野に着目した施策体系

販売力強化

所得向上につながる販売戦略の展開

生産性向上

利益の最大化を目指す生産性向上

人財育成

次代を担う人財の確保・育成

農山漁村振興

元気で豊かな農山漁村づくり

特徴2

プロジェクトごとに数値目標を設定

継続的取組
地道な取組



プロジェクト
関係者が連携した
重点的な取組



所得向上プログラム
生産者が実践

特徴3

対話を重視した
施策形成

進行管理・施策形成

青森県「農林水産力」
強化本部
(本部長：知事)

情報共有

8つの部会
(部会長：課長)

対話

生産者
関係団体
市町村

① 販売力強化

所得向上につながる
販売戦略の展開

4プロジェクト

商品開発

消費者ニーズに寄り添った新商品開発P

販路拡大

物流革新と販路開拓・拡大P

情報発信

あおりブランドの確立に向けた情報発信の強化P

地産地消

地域経済の活性化に向けた地産地消の推進P

② 生産性向上

利益の最大化を目指す
生産性向上

28プロジェクト

【農業】

水田農業

世界に羽ばたく持続可能な米づくりP / 水田フル活用による収益力強化P

野菜・花き

「ながいも」で儲かる産地づくりP / 「にんにく」で儲かる産地づくりP
施設園芸で儲かる産地づくりP

果 樹

世界に誇る「青森りんご」の次世代への継承P / 安全・安心の「青森りんご」輸出基盤の強化P
おうとう「ジュノハート」による産地力向上P

畜 産

多様なニーズに対応した牛肉生産P / 次世代につなぐ酪農産地づくりP
持続可能な畜産を支える草づくりP / 畜産を守る家畜衛生対策の推進P

生産基盤

スマート農業にも対応した基盤整備の推進P / 農業・農村の防災・減災、強靱化P
経営の効率化に向けた農地集積・集約化等P

先端技術

あおり「農業DX」の実現P

持続可能な農業

環境負荷低減による持続可能な農業の実践拡大P

【林業】

森林整備

緑豊かな森林づくりによるCO₂吸収力の強化P

生産基盤

県土を守る森林環境の保全P / スマート林業技術等を活用した林業のデジタルシフトP

木材利用

県産材の安定供給と利用の確保P

【漁業】

増 養 殖

ホタテガイ100億円産業の恒久化P / サーモンの一大産地化P / ナマコ資源増大チャレンジP
つくり育てる漁業の推進P

漁船漁業

持続可能な漁業に向けた新たな資源管理の推進P

水産基盤

水産業の成長産業化に向けた拠点整備P / 環境変化に適応した漁場生産力の強化P

③ 人財育成

次代を担う人財の
確保・育成

3プロジェクト

農業人財

未来を担う人財育成P

林業人財

林業の新たな担い手確保・育成P

漁業人財

漁業者の確保・育成P

④ 農山漁村振興

元気で豊かな
農山漁村づくり

7プロジェクト

地域活性化

あおもり型農村RMOの実現P / 「海業」の推進による漁村の活性化P

多様な人財活躍

多様な農業人財の活躍促進P / ユニバーサル農業の推進P

地域資源

食の力を生かした健康的な暮らしの実現P / 農業・農村インフラの機能の確保P
森林資源等を生かした山村の振興P

	①販売力強化	②生産性向上	③人財育成	④農山漁村振興
農 業	4	17	1	7
林 業		4	1	
漁 業		7	1	
合 計	4	28	3	7

合計 **42** プロジェクト

※プロジェクトは社会情勢の変化や
事業のスクラップ&ビルドに応じて
随時見直し

農業

施策の柱

②生産性向上

現在の振興方策

主要品種の優れた特性を最大限に発揮し、需要に応じた米生産を推進



プロジェクト

世界に羽ばたく持続可能な米づくり

目標

輸出用米の作付面積 R4 : 321ha → R10 : 1,000ha

数値目標の設定

挑戦する内容

- ・「超・プレミアム米」「超・低コスト米」の生産・販売
- ・輸出を見据えた品種開発と栽培実証
- ・衛星ナビやデジタル技術等を活用した良食味・高品質生産

具体的な取組内容

関係者の声 (対話)

- ・稲作を続けていくため、所得を確保できる米づくりへの取組支援（生産者）
- ・高品質米の安定生産のための効果的な生産指導体制の構築が必要（農協）
- ・価格競争力の高い米など需要に応じた米を安定供給してほしい（取扱業者）

関係者の声を反映

役割分担

- ・生産者 : 実証ほ運営、輸出米の生産拡大
- ・農協・集出荷団体等 : 輸出の取組拡大、情報提供、現地指導
- ・産技センター : 多収品種開発、低コスト栽培技術確立
- ・県 : 進行管理、研修会開催、現地指導

関係者の役割分担を明確化

変革後の姿

- ・多様な市場ニーズに対応可能となり、持続可能な米産地が形成
- ・デジタル技術の活用により精度の高い生産指導が可能

目標達成後の姿

1 販売力強化

プロジェクト名	あおもりブランドの確立に向けた情報発信の強化プロジェクト
---------	------------------------------

目標	県産品の認知度 R4 : 43.9% → R10 : 48%
----	--------------------------------

挑戦する内容	多様な情報ツールを活用した県産品の情報発信の強化
--------	--------------------------



県産品情報サイトによるPR

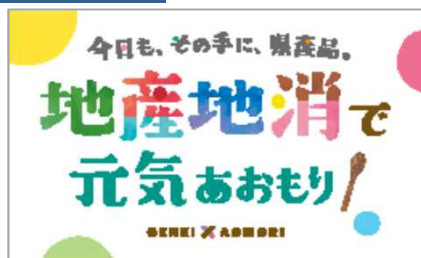


Web雑誌での情報発信

プロジェクト名	地域経済の活性化に向けた地産地消の推進プロジェクト
---------	---------------------------

目標	県民運動協力店 R4 : 680店 → R10 : 1,000店
----	----------------------------------

挑戦する内容	<ul style="list-style-type: none"> 官民一体での「地産地消で元気あおもり」県民運動の展開 小売店・飲食店・食品製造業者等における県産品取扱促進
--------	--



県民運動ロゴマーク



生産者と小売店等との情報交換会

2 生産性向上

プロジェクト名	世界に誇る「青森りんご」の次世代への継承プロジェクト
---------	----------------------------

目標	高密度わい化栽培面積 R4 : 27ha → R10 : 150ha
----	------------------------------------

挑戦する内容	<ul style="list-style-type: none"> 青森りんごの総合的な戦略の構築 りんご植栽150周年プロモーションの展開 高密度わい化栽培の取組促進の支援 など
--------	--



りんごの高密度植栽培

プロジェクト名	ホタテガイ100億円産業の恒久化プロジェクト
---------	------------------------

目標	養殖ホタテガイ 生産額 R4 : 155億円 → R10 : 100億円台維持 生産量 R4 : 77,991t → R10 : 90,000t
----	--

挑戦する内容	<ul style="list-style-type: none"> 陸奥湾ホタテガイ総合戦略の策定 環境変化に対応した新たな養殖技術の開発 持続可能な安定生産に向けた親貝づくり体制強化
--------	--



養殖ホタテガイの調査



ホタテガイ稚貝の選別

3 人財育成

プロジェクト名	未来を担う人財育成プロジェクト
---------	-----------------

目標	新規就農者数 R4：257人 →R10：300人 農業法人数 R4：553法人→R10：900法人
----	--

挑戦する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農業経営のプロになる実践的経営力の向上 ・グローバル化に対応した若手農業者等の提案型海外研修の実施 など
--------	--



収入保険の説明



県農業・就農情報サイト「農なび青森」

プロジェクト名	林業の新たな担い手確保・育成プロジェクト
---------	----------------------

目標	年間新規就業者 H29～R3平均：90人→R5～R10：110人
----	-------------------------------------

挑戦する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学生等を対象とした林業出前講座等による魅力発信 ・「林業ベンチャー」の育成 など
--------	--



青い森林業アカデミー



林業出前講座

4 農山漁村振興

プロジェクト名	あおもり型農村RMOの実現プロジェクト
---------	---------------------

目標	あおもり型農村RMO数 R4：0組織→R10：12組織
----	--------------------------------

挑戦する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ支援による稼ぐ力のある地域経営体の育成 ・農泊を切り口とした関係人口の創出 など
--------	---



買物困難者のための移動販売



あおもりグリーン・ツーリズムガイド

プロジェクト名	「海業」の推進による漁村の活性化プロジェクト
---------	------------------------

目標	海業の取組 R4：0件 → R10：4件
----	----------------------

挑戦する内容	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者が主体となる消費拡大イベントの開催 ・漁港や藻場を活用した漁業体験の推進と普及
--------	--



漁業者による調理講習会



ウニ採り体験

現状 経営面積 **320a**

【品目構成】

ながいも（販売用86a、種子用30a）、にんにく（販売用48a、種子用16a）、ねぎ（秋どり40a）、緑肥（100a）

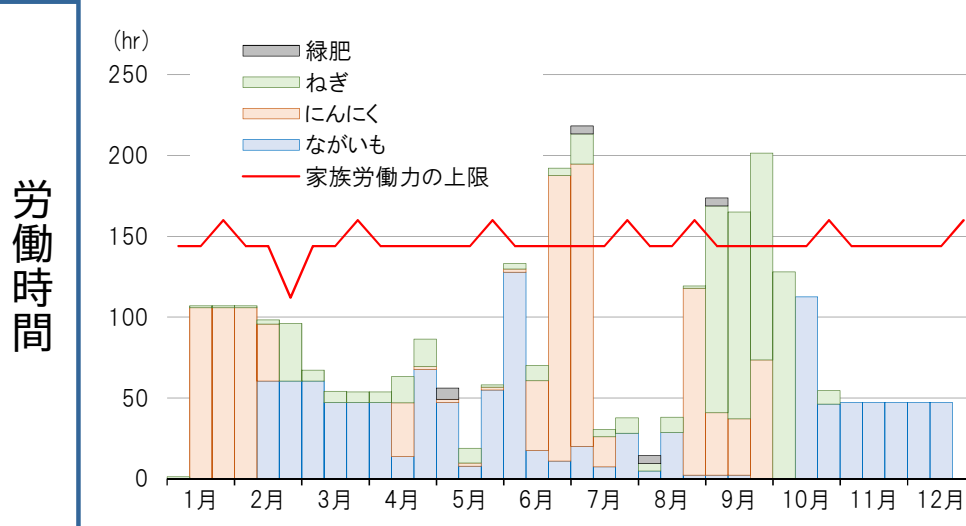
【労働力】

家族2人、雇用27人日（労働時間2,983時間）

【主な資本装備】

トラクター（100ps、70ps、40ps）、マニュアルプレッダー、ロータリー、ブームプレーヤー、トレンチャー、ながいも植付機、コンベアトレンチャー、にんにく植付機、パワーハーベスタ、ねぎ収穫機、ねぎ半自動調製機、軽トラック、トラック 等

経営 収支	粗収益	14,596	千円
	経営費	11,176	千円
	所得(所得率)	3,420	千円 (23.4%)
	労働時間(10aあたり)	2,983	時間 (93.2時間)



導入後 経営面積 **336a**

【品目構成】

ながいも（販売用86a、種子用30a）、**にんにく（販売用60a、種子用20a）**、**ねぎ（夏どり20a、秋どり20a）**、緑肥（100a）

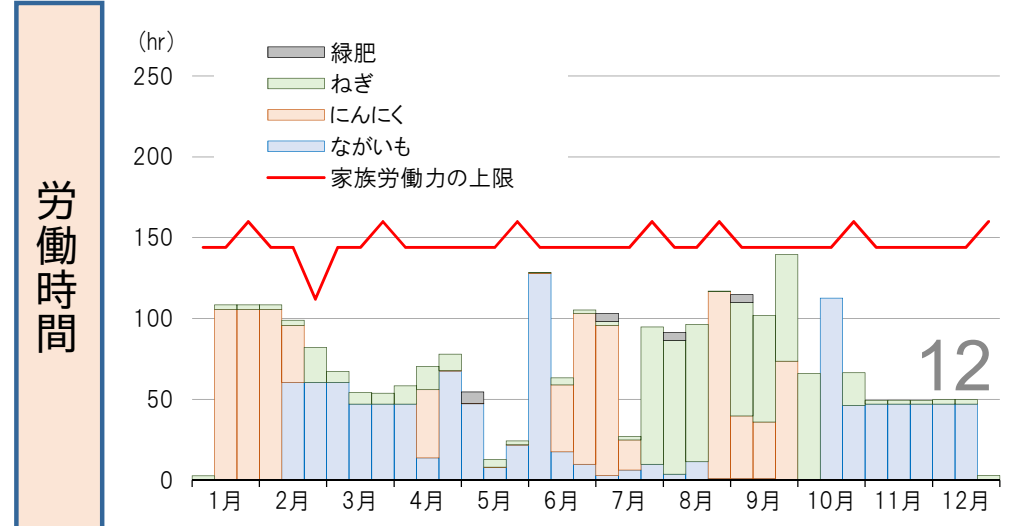
【労働力】

家族2人、雇用0人日（労働時間：2,912時間）

【主な資本装備】

※新たに次の機械を導入（1/2補助事業を想定）
農業用ドローン、フロントローダー、パレットフォーク、4条同時引き抜きコンベア付きにんにく収穫機、乗用管理機、ロータリーカルチ

経営 収支	粗収益	18,734	千円
	経営費	12,632	千円
	所得(所得率)	6,102	千円 (32.6%) ▲増加
	労働時間(10aあたり)	2,912	時間 (86.7時間) ▼削減



プログラムのポイント

- 収量・品質の向上に向けて、優良種苗を導入します。
- 労働時間の削減に向けて、スマート農業機械を活用するなど新たな技術を導入し、雇用に頼らない経営を目指します。
- 有利販売に向けて、「ねぎ」では新たな作型を導入します。



所得が1.8倍に増加 10a 当たり労働時間が7%削減（雇用ゼロ）

収量・品質の向上対策

- ① 基本技術の徹底（品目共通）
→ 緑肥を導入した土づくりを基本とした適期作業の実施 [販売単収：ながいも112kg、にんにく35kg、ねぎ132kg増（全品目5%増）]
- ② 排水対策の実践（品目共通）
→ ほ場の明きょ設置や緩傾斜化 [気象災害リスクの低減と生産の安定化]
- ③ 優良種苗の導入（ながいも・にんにく）
→ 優良種苗の導入と計画的な更新 [販売単収：ながいも561kg(25%)増、にんにく98kg(9%)増]

省力化対策

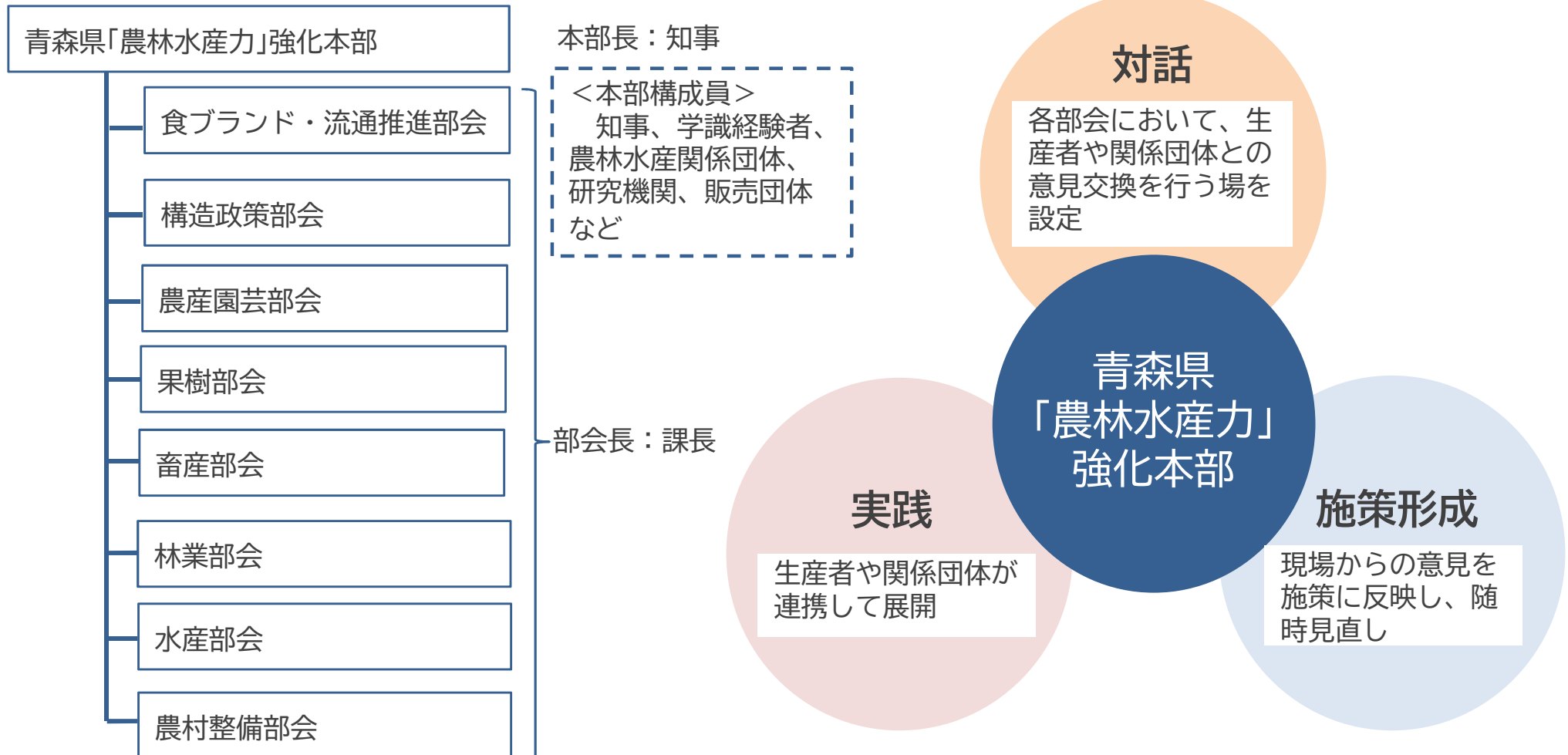
- ④ スマート農業機械（ドローン）の導入（品目共通）
 - ドローンの活用による病害虫防除
[防除作業時間：ながいも0.7時間/10a(43%)減、にんにく2時間/10a(82%)減・ねぎ0.5時間/10a(92%)減]
- ⑤ 基肥一発体系の導入（ながいも・ねぎ）
 - 追肥作業を削減 [追肥作業時間：ながいも6時間/10a(100%)減・ねぎ3時間/10a(100%)減]
- ⑥ 主要作業の機械化（にんにく・ねぎ）
 - にんにく：収穫機の導入及び作業体系の変更 [収穫作業時間：にんにく8.7時間/10a(74%)減]
 - ねぎ：ロータリーカルチによる中耕 [中耕作業時間：ねぎ4時間/10a(27%)減]

有利販売と労力の分散

- ⑦ 大苗定植夏どり作型の導入（ねぎ）
 - 7・8月出荷による有利販売 [平均単価：11円/kg(3.2%)高]
 - 収穫・調整作業時間の分散 [労働時間：9・10月計496hr/40aを7・8月に248hr/20a+9・10月に248hr/20aに分散]

- 知事を本部長とする本部の下、分野ごとに部会を設置し、生産者や関係団体と連携して施策を展開します。
- 現場からの意見を施策に反映させるため、各部会単位で、生産者や関係団体のキーパーソンとの意見交換を随時行います。

推進体制



●対話を実施する司令塔となり、意見を集約

<対話のイメージ>

#あおばな、各地域ごと、プロジェクトごと、品目・分野ごと、設定したテーマ など

●意見を踏まえた施策形成

<流れ>

対話（随時）→部会（8月）→予算編成（8～2月）→部会（1月）

●プロジェクトの進行管理

対話の結果や目標の達成状況などに応じて取組内容を見直し